

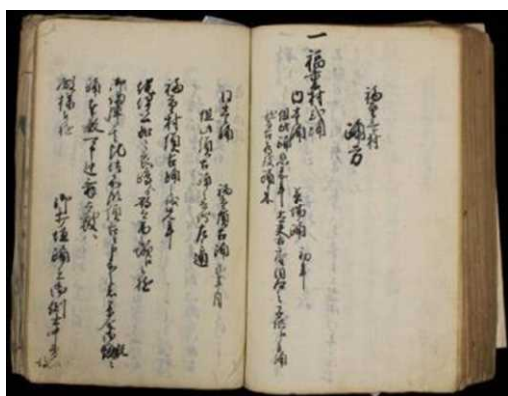
『郷村記』にみる大村の村々

会場 歴史資料館 企画展示室 期間 令和5年7月22日(土)～9月3日(日) 10:00～18:00
作成 大村市歴史資料館

郷村記とは

『郷村記』は、江戸時代の大村藩内の村々の様子を調査し、まとめたものである。現在、長崎歴史文化博物館に78冊が残っている。1681(天和元)年、大村藩4代藩主の大村純長の時につくりはじめ、何回かの中断後、1862(文久2)年、最後の藩主純熙の時に完成した。

その内容は、村の面積や石高(米のとれる量)、人口、職業、名産品、名所など、多くのデータが記されており、これを見ていくことで、この頃の村の特徴がよくわかる。



郷村記福重村

制作年代：江戸時代

『郷村記』をつくる前に、福重村が村内のことをまとめたものと考えられる古文書。『郷村記』と比べると、項目の立てかたが違ったり、福重村を構成する福重、皆同、今富村の情報が別々に記録されているなどの違いがある。情報を絞って『郷村記』にしていると見られる。

大村藩とは

1600(慶長5)年、大村家の当主の喜前は、関ヶ原の戦いで徳川家康に味方し、後に江戸幕府から大村領の領主として認められたことにより、大村藩が誕生した。

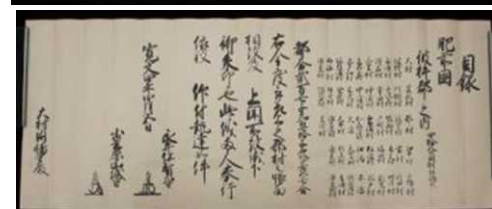
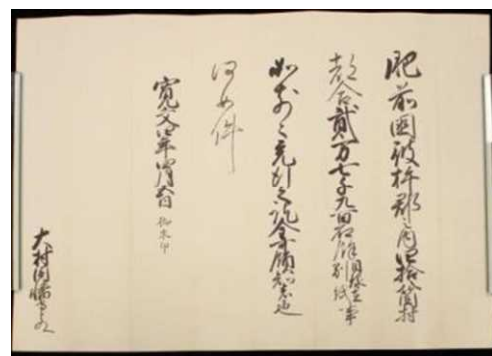
大村藩は、今の大村市だけでなく、東彼杵郡の3町に西海市、時津町や長与町、そして長崎市、佐世保市、諫早市の一部など、大村湾をとり囲んだ広い範囲を領地とした。その中に48の村があり、石高は1664年の時に2万7,973石。その後は、土地を開発し、海や山を活かした産業をつくり出し、『郷村記』が完成した頃には石高が5万9,060石に、村の数も68に増えた。

領知高御朱印写(上) 領知目録(下)

制作年代：1664(寛文4)年

江戸幕府4代将軍の徳川家綱が、大村藩4代藩主の大村純長に対して「彼杵郡の内の48か村」、2万7,900石の藩領の支配を認めた文書。この石高が江戸時代を通じて、大村藩の正式な石高「朱印高」となった。

領地目録のほうは、江戸幕府の重臣が、大村藩4代藩主の大村純長に対して、将軍が彼杵郡48か村、2万7,900石の支配を認めたことを伝えた文書である。先の将軍の朱印状とセットの関係にある。



武士と町人が生活する場 五小路・町

江戸時代、各藩は政治を行う城を中心に、周辺に武士や商人たちを住まわせて城下町をつくった。

大村では、玖島城(現大村公園)で藩主が生活し、政治が行われていた。周辺の玖島地区や久原地区には、五小路と呼ばれる通りがあり、武士たちが住んでいた。一方、今のアーケードを中心とする東本町や西本町などには長崎街道が通り、旅人たちが宿泊した大村宿が置かれた。ここには多くの店があり、商人や職人たちが生活していた。



ロンドンニュース「大村宿」(左) 本陣鬼瓦(右)

制作年代：1861年10月26日(ロンドンニュース)

江戸時代の終わりに長崎街道を通った外国人が描いた、長崎街道大村宿の様子。「イラストレイテッド・ロンドンニュース」というイギリスの新聞にのった。

描かれているのは、現在のアーケード内のプラットおおむらのあたりと考えられ、道に面して高い屋根の建物が立ち並び、大勢の人が集まっている。鉄砲をかついだ人たちは、ここを通過して江戸へ向かうイギリス公使たちを守っていた大村藩の兵士である。

瓦のほうは、プラットおおむら付近にあった本陣(街道を通る大名や幕府の役人などが泊まる場所)の屋根の鬼瓦。大村宿本陣の建物は、捕鯨業で富を得た深澤家が提供した。瓦には、深澤家の家紋「金升紋」が刻まれている。

絵葉書「肥前 大村川口ヨリ白島ヲ望ム」

制作年代：大正～昭和初め

内田川の河口付近の写真。奥には大村湾と白島、川岸には店と思われる建物と多くの船が浮かんでいる。『郷村記』では、内田川は「草場川」と記され、各地からやって来る船を繋いでおく場所である、と記されている。



深澤儀太夫橘勝清像【寄託】

大村藩で初めて鯨捕りを始めた、初代の深澤儀太夫勝清の肖像画。戦国時代の武士を思わせる、勇ましい姿をしている。今の波佐見町の出身で、最初は中尾次左衛門といった。

武者修行で全国を回っていた儀太夫は、和歌山県の太地で鯨捕りの技術を学んだ。そして、大村藩で鯨組「深澤組」をつくり、五島や壱岐などの海で鯨を捕り、大きな財産を手にした。また、そのお金を松原の野岳大堤をつくるために提供するなど、社会のために貢献した。



『郷村記』の名所あれこれ

福重村 弥勒寺の不動明王石仏

制作年代：鎌倉時代カ

弥勒寺公民館前には、怒ったような顔や、三鈷剣や羂索(縄)を持つ不動明王の線刻石仏がある。この石仏は、福重村『郷村記』の「寺社之事」に、「不動 神体野石」として記録されている。

石仏のある場所は、寺院群「郡七山十坊」のひとつである弥勒寺の領内と言われている。福重地区には寺が集中していたため、近くには線刻如来像や仏頭なども残っている。



弥勒寺公民館と不動明王線刻石仏



弥勒寺不動明王線刻石仏 (拓本)
採拓者：大石 一久 氏

竹松村 聖宝寺の石仏

制作年代：1522(大永2)年 / 1682(天和2)年

家老・大村彦右衛門の先祖である大村純次の墓の地輪部分(下部の石)と、大村弥五左衛門純茂が建てた観音像。竹松村『郷村記』にある「聖宝寺」の跡地にあったと思われる。

墓には、純次の法名「慶哲」と1522(大永2)年の年号が見られる。観音像は、1574(天正2)年にキリシタンによって墓所が壊されたため、彦右衛門の子の弥五左衛門が供養と再興のために建てたもの。



八天社 (市内竹松本町第2 公民館裏)



萱瀬村 伝染病犠牲者の供養の塚

制作年代：1739(元文4)年

萱瀬村では、1738年春に菅牟田郷で疱瘡が流行し、感染者256人のうち61人が亡くなった。塚には、伝染病流行から患者の隔離、1739年4月に朝追岳の麓に靈魂塚が建てられるまでの経緯が彫られている。

萱瀬村『郷村記』の「靈魂塚之事」には、経緯のほかに「高さ6尺(約180cm)程の野石」「石面に靈魂塚の文字を鑄(彫ること)す」と、塚の様子が記録されている。塚は現在、萱瀬環境浄化センター付近に移動している。



靈魂塚と拓本(採拓者：大石 一久 氏)

鈴田村 キリシタンの牢屋

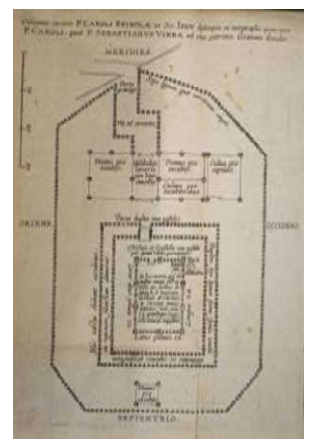
建設年代：寛永年中(1624~63)

鈴田村『郷村記』の「牢屋跡之事」には、寛永年中に逮捕したキリシタンを閉じ込める牢屋を建てたことが記されている。この図面が、1602(慶長7)年に来日したイタリア人宣教師、カルロ・スピノラの伝記にある。

1622(元和8)年に長崎で死刑になったスピノラは、処刑までの約4年間を鈴田牢で過ごした。伝記には鈴田牢は、吹きさらしで夏は強い太陽の光が差し込み、冬は雪が吹き込むと記されている。



鈴田牢跡(市内陰平町)



「カルロ・スピノラ伝」から
鈴田牢図面【寄託】

「農」の村 池田分・竹松・福重・鈴田

現在の太田市は、太田藩の中でも平野が多い場所である。その中でも、中心にある池田分（今の西太田地区）や竹松村、福重村、鈴田村は、農業が盛んなところだった。

江戸時代、村の豊かさは田や畠でつくられる作物の量が基準になっていた。現在はこれらの地域でも田や畠が少なくなっているが、むかしは米だけでなく、畠ではいろんな野菜がつけられ、村の特産物にもなっていた。



放虎原の開発者第1号 松田道猷

荒地だった放虎原を、江戸時代の初めに農地に変えたのが松田道猷だった。元は伊達政宗の家来だったが、1615(元和元)年の大坂夏の陣で豊臣方として捕まり、太田藩に預けられた。放虎原に住んで開拓した道猷の墓は、現在も古賀島町にある。

太田『郷村記』の「古廟之事」には、「北川次郎兵衛墓」と本名での墓の現況の記録がある。

放虎原の開発者第2号 千葉ト枕

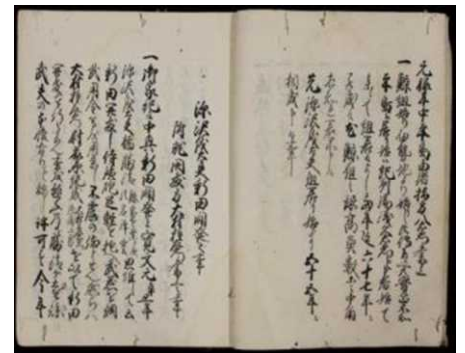
千葉ト枕は放虎原の開発のため、萱瀬の郡川から用水路を引いて田や畠をつくった。また、楮（和紙の原料）や櫨（ろうそくの原料）の木を植えたり、長崎街道沿いに桜を植えたり、祇園神社を建てるなどして、今の桜馬場をつくった。現在、桜馬場保育園近くに墓がある。

太田『郷村記』の「並松宿之事附往還附替之事」には、ト枕が並松（松並）を開拓し宿場を開いたため、長崎街道がルート変更したエピソードがある。



見聞集 四十五

太田藩の出来事をまとめた『見聞集』には、市内北部にある野岳湖がつけられた話が書かれている。これには、深澤儀太夫が藩と相談し、新しく田畑を開いて鉄砲足軽などを備えさせるため、1661（寛文元）年から63年にかけて堤をつくったこと、そのお金は儀太夫が出したとある。野岳湖は、松原村の『郷村記』にも「野岳大堤」として記録され、松原・福重の田畠を潤した。



焼印

一斗升

米などを量る容器で、1斗（約18ℓ）入る。側面には「一斗」、「新器検」の文字が焼印で押されている。他にも一升枡（約1.8ℓ）、五升枡（約9ℓ）、五合枡（約0.9ℓ）などがある。

展示品は明治以降のものだが、江戸時代でも生産された米などは、このような容器を使っていた。

「山」の村 萱瀬

大村市の東側には、経ヶ岳や多良岳などの多良山系の高い山々がそびえ、この山々から大村湾に向かって、市内最大の川で大村の扇状地を生んだ郡川が流れている。

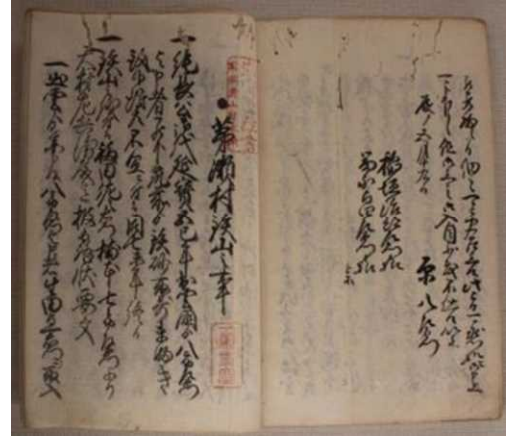
萱瀬村は、多良山系と郡川によって生まれた山間の村で、樹木などを活用した産業が生まれた。また、隣の佐賀県鹿島市ともつながっていることから、戦国時代には佐賀から攻めてくる敵を防ぐため、たくさんの城がつけられた。

跋萱瀬村鉄山之事

制作年代：江戸後期

これによると、1677（延宝5）年に出雲（今の島根県）の八郎右衛門がやって来て、筑前（今の福岡県）から砂鉄を取り寄せて「たたら製鉄」を行ったが、利益が出なかったので、2年後には終了したそうである。このことは、『郷村記』の萱瀬村にも記録されており、「今は、場所はわからない」とされている。

「たたら製鉄」は、砂鉄を木炭で燃して鉄をつくる方法だが、萱瀬村の豊富な森林を活用した新たな試みは失敗だったようである。



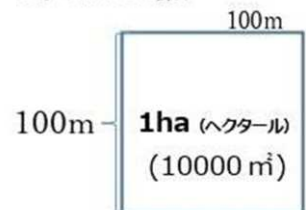
前挽大鋸



山で木を製材するのに使用したノコギリ。幅広の刃の形は日本独特のものである。主に一人で使用し木を縦に切っていく。明治になって機械による製材が行われると使用されなくなった。豊富な森林を持つ萱瀬村の産業をしめす道具である。

『郷村記』あれこれランキング①

1町=1haとして計算



広さランキング

順位	村の名前	田地の広さ	順位	村の名前	田地の広さ	順位	村の名前	山野の広さ
1	萱瀬	5,292町0反 5,292ha(ヘクタール)	1	福重	200町2反5畝25歩	1	萱瀬	5,123町8反3畝9歩半
2	福重	2,610町0反	2	鈴田	155町9反4畝6歩	2	福重	2,309町6反7畝6歩
3	大村 池田	2,332町8反	3	大村 池田	137町4反3畝12歩半	3	大村 池田	1,766町9反5畝7歩半
4	大村 久原	1,555町2反	4	竹松	113町2反7畝14歩半	4	大村 久原	1,307町8反9畝16歩半
5	鈴田	1,382町4反	5	萱瀬	104町5反7畝29歩半	5	鈴田	1,102町5反9畝25歩
6	竹松	980町4反	6	三浦	92町4反7畝21歩	6	三浦	675町6反4畝16歩
7	三浦	918町0反	7	松原	91町4反6歩	7	竹松	614町5反8畝26歩半
8	松原	729町6反	8	大村 久原	85町4反5畝12歩半	8	松原	596町6反4畝9歩半

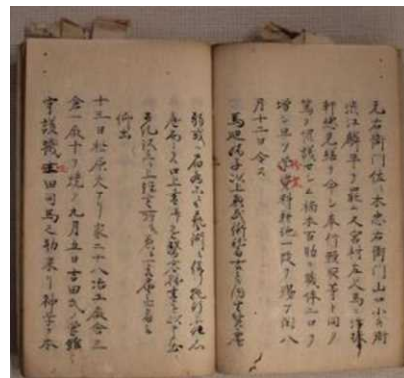
「海」の村 大村・松原・三浦

大村市は萱瀬地区を除いて、すべて海に面しているが、『郷村記』を見ると、すべての村が海を生活の場としていたわけではない。江戸時代、松原村と三浦村、大村の東浦や前船津、新城浦には、一般の農民とは別に「浦百姓」と呼ばれる人たちが住み、漁を行って生活していた。彼らが採る魚介類の中には、大村だけでなく、遠く中国まで運ばれたものもあった。また、水主と呼ばれる船を扱う仕事を行う人もいた。

九葉実録 第四十五卷

大村藩でおきた出来事を日記形式で記した『九葉実録』。1824(文政7)年閏8月13日の記事に、松原村で火事が発生し、家28軒、「冶工」の建物(鍛冶屋のこと)3軒、倉1軒、小屋10軒が焼けたことが記されている。この火事は、『郷村記』松原村の「火災之事」にも記されている。

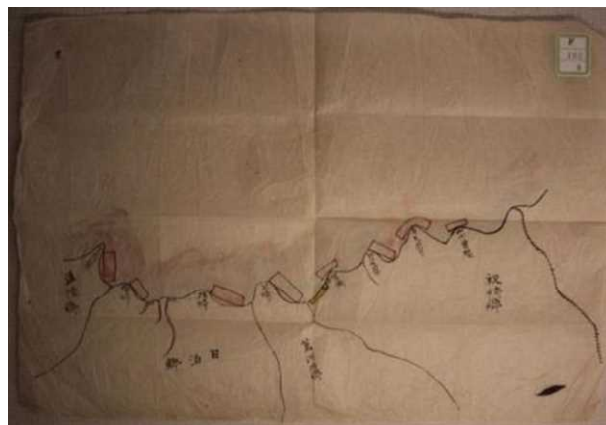
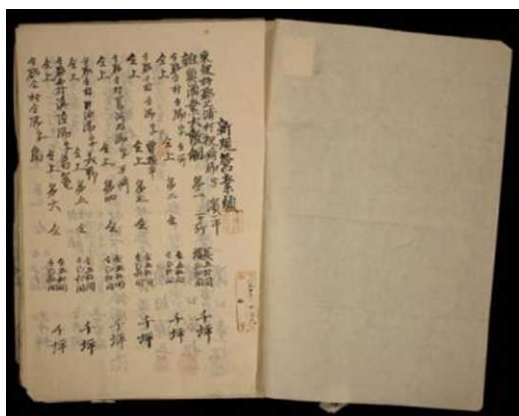
『郷村記』によると、松原には17軒の鍛冶屋があった。



写真「松原浦の風景」

大正時代の松原浦の写真。現在は海岸そばを道路が通り、コンクリートの壁がつくられているが、写真には石垣でかためた海岸に漁船、そして海そばに建つ藁ぶき屋根の家が写っている。

『郷村記』の松原村によると、70軒の家があり、入江はなく西北の方向から船を入れるため、船を繋ぐには不便だったようである。また、煎海鼠(干したナマコ)を藩の役所に毎年1,000斤(約600kg)を納める決まりだったが、江戸時代の終わりには捕れなくなっていたようだ。



漁業関係新規営業書類(左) 三浦村海岸筋地図(右)

制作年代：1900(明治33)年10月4日(書類) / 明治時代(絵図)

明治時代に三浦村で大敷網で漁を行うことを長崎県に届け出た書類。明治時代でもここで漁業が行われていたことがわかる。海沿いに約90m×36.5mの網を計7か所入れて、「雑魚」を捕ろうとしたようである。『郷村記』三浦村には、藩に上納する税金の種類に「網株七張」(銀70匁)がある。この七張の網が、この時と同じ場所なのかは不明だが、明治になっても漁業が三浦村の産業の一つであったとわかる。

絵図のほうは、三浦村の海沿いに設置された網の場所を示したもの。海岸沿いの特に岬の近くに設置されていたことがわかる。書類のほうにも、同じ絵図が付けられている。

中世の踊りを今に伝える「大村の郡三踊」

令和4年（2022年）11月30日、市内の沖田踊と黒丸踊が、ユネスコの無形文化遺産に登録された。これに寿古踊を加えた三つの踊りが「大村の郡三踊」である。『郷村記』には各踊りの始まりが記されており、戦国時代の領主、大村純伊が領地を取り戻したお祝いに踊られたとされ、江戸時代でも大事な踊りとして保護されていた。現在も、各保存会のみなさんの努力によって継承されている。

大村家から拝領の寿古踊垣踊衣装

(着物・笠)

制作年代：大正時代

郡三踊の一つ、寿古踊の家臣役「垣踊」の衣装。1914(大正3)年に踊手が、かつての藩主家である大村家から頂いた。

郡三踊は、1474(文明6)年の中岳の合戦で島原の領主・有馬貴純に負けた大村の領主・大村純伊が、6年後に有馬氏から領地を取り戻したときに踊られた。

福重村の『郷村記』には、「須古踊并沖田踊之事」として、由来が書かれている。純伊が大村に戻ったころ、須古(佐賀県杵島郡)の人が踊りを教え、純伊は月の輪で顔を隠して太鼓を叩いて踊り、家臣も鍋形の笠を被って踊ったとある。



『郷村記』あれこれランキング②

職業別家の数ランキング

順位	村の名前	武士の家の数(軒)
1	大村 (池田・久原)	835
2	鈴田	295
3	福重	107
4	竹松	100
5	萱瀬	75
6	松原	37
7	三浦	37

順位	村の名前	農民の家の数(軒)
1	大村 (池田・久原)	779
2	竹松	572
3	福重	523
4	萱瀬	413
5	三浦	309
6	松原	291
7	鈴田	217

人口ランキング

順位	村の名前	人口(人)
1	大村 (池田・久原)	9,478
2	竹松	2,528
3	福重	2,421
4	鈴田	2,242
5	萱瀬	1,867
6	三浦	1,621
7	松原	1,505

順位	村の名前	漁民の家の数(軒)
1	大村 (池田・久原)	162
2	松原	69
3	三浦	39
4	竹松	0
5	福重	0
6	萱瀬	0
7	鈴田	0

順位	村の名前	町人・職人の数(軒)
1	大村 (池田・久原)	588
2	萱瀬	6
3	松原	3
4	鈴田	1
5	竹松	0
6	福重	0
7	三浦	0

『郷村記』(福重村の郷村記)から作成

『郷村記』(福重村の郷村記)から作成
 武士の村数(池田・久原・福重・三浦・松原・竹松・萱瀬) / 農民の村数(池田・久原・福重・三浦・松原・竹松・萱瀬) / 町人・職人の村数(池田・久原・福重・三浦・松原・竹松・萱瀬)

農作物の生産量ランキング

順位	村の名前	総生産量 (田高+富高)	順位	村の名前	田高 (お米の生産量)	順位	村の名前	富高 (農作物の生産量)
1	福重	3,640石7斗8升	1	福重	3,371石4斗0升	1	大村 池田	1,180石2斗4升
2	大村 池田	3,250石7斗7升	2	鈴田	2,236石9斗7升	2	竹松	748石1斗7升
3	竹松	2,652石0斗6升	3	大村 池田	2,070石5斗3升	3	大村 久原	377石4斗7升
4	鈴田	2,472石3斗6升	4	竹松	1,903石8斗8升	4	三浦	272石7斗4升
5	萱瀬	1,927石9斗6升	5	萱瀬	1,790石6斗6升	5	福重	269石3斗8升
6	松原	1,570石0斗7升	6	松原	1,494石2斗6升	6	鈴田	235石3斗9升
7	三浦	1,562石7斗9升	7	三浦	1,290石0斗4升	7	萱瀬	137石3斗0升
8	大村 久原	1,407石7斗3升	8	大村 久原	1,030石2斗5升	8	松原	75石8斗1升

『郡村記』「賦入私請両村成田畠畝歩数并郡村特知之事」/「郡村之事」から作成

特産品が多い村ランキング

順位	村の名前	山などでとれる特産品	数
1	萱瀬	椎茸、蕨、松茸、木くらげ、多葉粉、茶、柿、蜜柑 など	33
2	大村 (池田・久原)	萱、蕨、石路、楊梅、梅、栗、落、茶、蜜柑 九年母(みかんの仲間)、金柑、李、柿、梨子 など	19
3	福重	薯蓣(ながいも)、柿、梨子、蜜柑、梅、楊梅、蕨	7
4	松原	榎、榎、柿、梨子、蜜柑、茶 など	7
5	竹松	蜜柑、橙(みかんの仲間)、梅、茶、柿	5
6	鈴田	楊梅、石路、蓬、芹	4
7	三浦	梨子、柿、茶	3

『郡村記』「山郡土産之事」から作成

順位	村の名前	海などでとれる特産品	数
1	大村 (池田・久原)	あこや貝、あさり貝、蛤、馬刀貝、棠螺、水雲 青海苔、煎海鼠、鰯、鰯、鯛 など	18
2	三浦	煎海鼠、海松喰(貝)、淡(水草の仲間) など	7
3	松原	煎海鼠、生海鼠、八幡海苔、海松(海藻の仲間)	4
4	福重	鱈、鱈	2
5	萱瀬	鮎、鱈(田うなぎ)	2
6	竹松	なし	0
7	鈴田	なし	0

『郡村記』「海郡村産之事」/「海産之事」/「地産之事」/「山産之事」から作成

売っている商品が多い村ランキング

順位	村の名前	生産商品	数
1	大村 (池田・久原)	竹、薪、柿、栗、梨子、蜜柑、蕨、薯蓣(ながいも) 大根、胡麻、木綿、縄、萱、藍、胡瓜、里芋、 茄子、九年母(みかんの仲間) など	19
2	萱瀬	竹、薪、縄、蕨、蜜柑、梨子、楊梅、鍛冶炭 蕨、椎茸、白箸、鎌の柄(鎌の持ち手の部分) 鉄の平(鉄の金属部分) など	18
3	松原	鎌、包子、斧、鉈、鉄、烏賊、蛸、海老、鱈、鰯、細魚 榎、榎、茶、素麺 など	16
4	福重	榎、柿、梨子、蜜柑、梅、茶、薯蓣、七嶋萱 運根 など	13
5	鈴田	七嶋萱、洪薬、麦藁菰、藁菰、柿、足袋、梨子、菖蒲 菰、水手(さといも)、茄子、橙(みかんの仲間) 野菜豆 など	13
6	竹松	橙、蜜柑、茶、茄子、七嶋萱、西瓜、栗藍、大根 午房、人蔘、蚊屋布、紙 など	12
7	三浦	七嶋萱、榎実、茶、梨子、柿、芋 など	7

『郡村記』「売出物之事」から作成